

春秋会

ニュースレター

2025.9~10



9月・10月の予定

・9/13 (土)

第7回ゆるゆるゴルフコンペ

・9/17 (水) 12:00~

幹事会

・10/5 (日)

大阪弁護士会運動会

・10/9 (木) 18:30~

若手会 破産事件研修

・10/11 (土)

親睦 地引網&BBQ

・10/15 (水) 12:00~

幹事会

・10/20 (月)

政策シンポジウム「憲法
21条とSNS」

ジャズ&ハシゴ酒企画@東天満

前野 陽平

令和7年7月27日(日)、「ジャズ&はしご酒企画@東天満」が開催されました。タイトルだけ聞くと、「ジャズを奏でるおしゃれな夜」を想像されるかもしれませんが、蓋を開けてみれば、17時から音楽とアルコールと胃袋のフル稼働という、欲まみれの濃厚な夜になりました。

【1軒目】

まずはオトナの雰囲気漂うバーにてスタート。小学校のリコーダーの授業以来、音楽とは無縁の生活を送ってきた私にとっては、果たしてジャズを楽しめるか、、、。音楽が鳴り響いた瞬間、そんな不安は瞬く間に吹き飛ぶ。ギターとサックスとコントラバスの生演奏を目の前に、ワインを片手にチーズをいただくという、まさに「知的に酔う」時間。音楽のプロ3名の生演奏、と思いきや、サックスを奏でるのはなんと72期の満村和樹先生。ワインよりもイケメンで芳醇。時間はまだ18時。ジャズの余韻を引きずりつつ2軒目へ。





【2軒目】

2軒目は、「唐揚げとビール」という、胃袋と本能に従った王道ルート。ジャズとワインで「知的」にスタートした夜が、ここで一気に「本能」に切り替わる。鶏への冒流とも思えるほど油と衣をまとった唐揚げをビールでひたすら流し込む。ジャズの音色も良いが、衣の音色も捨てがたい。時間はまだ19時。胃袋に衣をまといつつ、3軒目へ。



【3軒目】

■ 2025 年度 広報委員

- ・柳勝久 (61 期、委員長)
- ・河野雄介 (60 期、担当副幹事長)
- ・西原 和彦 (55 期)
- ・堀川 智子 (57 期)
- ・溝上 絢子 (57 期)
- ・浦 寛幸 (59 期)
- ・松尾洋輔 (59 期)
- ・広瀬 元太郎 (60 期)
- ・山田 寛子 (65 期)
- ・金星 姫 (66 期)
- ・木場 晶子 (67 期)
- ・田村 瞳 (67 期)
- ・板崎 遼 (67 期)
- ・吉留 慧 (68 期)
- ・高一成 (69 期)
- ・根本 俊太郎 (70 期)
- ・足立 敦史 (71 期)
- ・村本 健司 (71 期)
- ・河野 哲平 (71 期)
- ・才木 晴幹 (72 期)
- ・中岡 さつき (72 期)
- ・中西 教子 (72 期)
- ・久井 大輝 (73 期)
- ・佐々木 崇人 (74 期)
- ・神澤 鈴子 (74 期)
- ・小林 悠人 (76 期)
- ・永田 駿 (76 期)
- ・山口 謙都 (76 期)

3 軒目は、厳選された日本酒が揃う名店へ。1 時間遅れてスタートしていたメンバーと合流。店内には所狭しと全国各地の日本酒の一升瓶がずらり。説明不要。ここはそういう場所だ。美味しい日本酒に魚、メのカレー。「はしご酒」の完成である。時間はまだ 20 時。無論、非公式で 4 軒目へ。



【まとめ】

ジャズ・唐揚げ・酒という、人間の三大欲求を一気に満たす贅沢な一夜となりました。気品と欲望が交差するこのイベント、参加者からは「また開催して！」の声多数。何はともあれ、大変楽しい夜となりました!!!

楽しかったよサマーフェス ~We are the world~

杉野 龍太

去る 8 月 28 日、昭和の風情を色濃く残す「鳥よし本店」の大宴会場にて、春秋会サマーフェスが開催されました。会場は、まるで昭和の時代にタイムスリップしたかのような懐かしさと賑わいに包まれ、65 名もの会員が集い、大盛況となりました。

当日、「夏っぱい」服装で参加した会員には、もれなくリーガリユードesignのうちわが配布されるとあって、会場には浴衣、アロハシャツ、阪神タイガースのユニフォーム、虫取り少年などなど、個性豊かな面々が勢ぞろいしました。



開会にあたって、親睦委員長・田村瞳先生よりご挨拶があり、つづいて、平野恵稔先生の軽妙かつ力強い乾杯のご発声で、グラスが一斉に掲げられ、会場の空気は一気に華やぎました。その後、新たに春秋会に入



会される2名の新入会員が壇上に上がって自己紹介を行い、場内からは大きな拍手



が送られました。

前回も好評だったジェスチャーゲームでは、予測不能の名（迷？）演技が続出。難解なお題に悪戦苦闘しながらも、身振り手振りで表現する姿に会場は大爆笑の渦となりました。参加者のみならず、観客側からも「もっと!」、「がんばれ!」、「なんだそれ!」などと賑やかな声が飛



び交い、とても熱狂的なひとときでした。



そして、この日のクライマックスは、副会長推薦候補者に選任された中森俊久先生にご挨拶を頂く場面でした。

先日、選考委員会で来年度の大阪弁護士会の会長推薦候補者として中井洋恵先生が、副会長の推薦候補者として中森俊久先生が選任されたため、この日に両先生方からご挨拶を頂く予定でしたが、残念ながら中井先生はご欠席の為、中森先生からご挨拶を頂くということになりました。

静かに挨拶が始まるかと思いきや、突如会場の照明が落ち、辺りが暗転。次の瞬間、会場に『We are the world』のイントロが響き渡り、スポットライトが司会の鈴木伸太郎先生を照らしました。そしてそのまま、鈴木先生が熱唱を始めるという、誰も予期していなかったサプライズ演出が展開されたのです。

驚きと
歓声の
中、客席
からは
次々にキ
ャストが
立ち上が
り、歌声
が重なっ
ていきま



した。ついにはマイケル・ジャクソンの仮装（下腹部マシマシ）まで登場し、会場の熱気は最高潮に。ベテランの先生方をも巻き込んで、最後は会場全体が一つとなつての大合唱となり、中井先生と中森先生にエールを送らせて頂くという、忘れがたいひとときとなりました。



盛り上がり冷めやらぬ中、黒田愛先生よりご挨拶があり、会場は再び温かい拍手に包まれ、サマーフェスは大成功のうちに幕を閉じました。

笑顔と歓声に彩られた今年のサマーフェスは、単なる懇親会にとどまらず、春秋会の結束と未来への期待を強く感じさせる催しとなりました。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました！！

きずな育英基金からの手紙（その3）

公益財団法人きずな育英基金 代表理事 山田 庸男

本基金を設立した経緯や活動内容は、これまで2回にわたりお話ししてきました。本基金の特徴は、学習塾代等の単なる経済的支援にとどまらず、体験学習を重視した交流会、餅つき大会、キャンプ、対話塾の開催など多様な活動を通じて人間力を養うと共に子ども同士の交流の輪を拡げてきたことにあります。今では、ひとり親の保護者達が毎月1回例会を開催するなど独自の活動を継続し、卒業生たちからも組織化の動きがあり、審査委員にも卒業生が関与するようになりました。



しかし、この活動を支えて頂いているのは、10名足らずの大阪弁護士会の中堅弁護士です。子どもの人権や貧困対策に永年関わってこられたベテラン弁護士に審査や各種行事の企画・運営に当初から幅広く関与して頂き、その貢献には感謝しても尽きることはありません。

他方、社会からの支援も継続の力となっています。少し財政的な話をすると、毎年予算は約4000万円で、そのうち中高生への支援金は合計約2700円程度で、管理経費は約200万円要しています。収入については、昨年例では、基本財産の運用益が約3100万円で、寄付金が2800万円となっています。この12年間の活動実績から計算すると、寄付金の総額は約2億4800万円で支援金の総額は約2億7500万円に上っています。法人や個人からの一般寄付のほか、最近では、本基金の活動が評価され、遺言書による遺贈も増えてきました。過去には、遺言執行者に指定された女性弁護士が遺言書作成にかかわり3000万円の遺贈を受けました。また、今年1月には、全く面識のない札幌在住の老婦人が生前公正証書遺言を作成されており、遺産を赤十

字や国境なき医師団、IPS細胞研究財団と並んで本基金にも1000万円の遺贈をしてくださいました。まったく心当たりのない老婦人からの遺贈で、改めて本基金の活動がこんな遠隔地でも周知されていたのかと大変感動を覚えました。

さて、話を変えて、支援をした大学生達約230名のその後の進路を見ますと極めて多彩、多様な分野へ就職し、活動を始めています。1期生のS君は京都工芸繊維大学を卒業後沖縄科学技術大学院に進学し、生命物理学会で受賞し、功績を上げて今春から製薬企業に研究員として就職しています。同じ1期生のF君は、阪大薬学部に進学その後大学院を卒業し、漢方の大手企業で活躍しています。また4期生のOさんは、東京芸術大学邦楽科に進学し、卒業時にはアカンサス音楽賞を受賞し、今春に大学院を卒業し、琴のプロ音楽家として羽ばたこうとしています。



その他、弁護士、公認会計士などの資格を取得したり、医療分野で活躍したり、多く輩出するようになりました。府立公立大学を始めとする国公立大学の医学部に進学して現在在学中の子どもも数名います。

これらの卒業生は、高い志を抱いていずれ社会のリーダーとして成長すると確信していますし、その歩みは着実だと思えます。

春秋会の皆さんへのお願いです。

3回にわたり、本基金の活動をお伝えしましたが、持続性の確保のためには一定の寄付金が必要です。ぜひ、遺言書の作成で相談を受任された場合は、遺産の一部でも本基金への遺贈を遺言内容に盛り込んでいただけないでしょうか。

本基金が継続して活動をできるように関心を持っていただければ望外の幸せです。



カレーが好きで好きでたまらない。

いわゆるスパイスカレーと呼ばれるカレーが好きで、欧風カレーはあまり食べない。欧風カレーとスパイスカレーの明確な違いはないが、しいていえば小麦粉を使っているかどうかであろう。大

阪はスパイスカレーの店が多く、その中でも事務所のある北浜あたりには名店が多い。

5年ほど前からは、食べるだけでなく自分でも作るようになった。色々な種類のスパイスを買い込んできて、日曜日に作っては家族に食べてもらっている。所持する教則本、レシピ本も軽く10冊を超えた。プロのレシピも参考にしながら、オリジナルなカレーを作るのが楽しい。お米はもちろんバスマティライスである。自作のカレーを作っては、インスタにあげてニヤニヤしている。最近はビリヤニにも手を出してしまった。いつか法律相談ができるカレー屋を出すのが夢だ。

そもそも、インドには「カレー」という料理はない。ヴィンダルーとか、サーグとか、コルマとか、スパイスを使った様々な料理があるのを勝手にイギリス人がカレーと名付けただけである。インドのスパイス料理は油を多く使った炒め物に近く、煮込み料理でもない。「タイカレー」などとも呼ばれるが、タイにはそのような名称の料理はなく、「グリーンカレー」も勝手に日本人などがそう呼んでるだけである。インドのカレーとグリーンカレーは作り方も全く異なる。

インドやタイだけでなく、アジアには様々な種類のカレーがある。応用の上手な日本人は、欧風カレー、スープカレーといったカレーを好みだし、「スパイスカレー」と呼ばれるカレーにおいてはその種類は無数である。「カレー」は料理名ではなく「ジャンル」である。中華、フレンチ、トルコ料理の世界3大料理に、和食とカレーを加えて5大料理にしてもらいたい。

カレー沼にどっぷりとハマってしまった。カレーは無限である。



あとがき

広報委員会では、会員の皆様から原稿を大募集します。ぜひ、ご連絡ください。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 子育て体験談
- 3 変わった国に行った旅行記
- 4 ペットや趣味の紹介
- 5 感動した本、マンガ、ゲームの紹介

などありましたら、以下のアドレスにご連絡ください。

広報委員長 柳 勝久 katsuhisa.yanagi@dojima.gr.jp